

4. 課題と今後の展望

【課題】

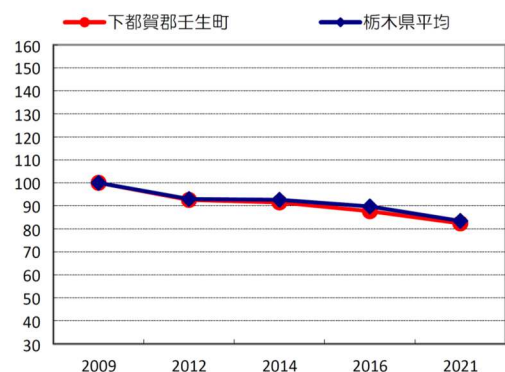
1. 若年層の急激な減少と少子高齢化の加速

壬生町の将来推計人口（2030 年）では、総人口が 5.3%減少する見込みですが、特に 15 歳未満の幼年人口は 20.3%減と大幅な減少が予測されています。高齢者（65 歳以上）比率も 2020 年の 29.0%から 2030 年には 32.1%へと上昇する見通しであり、次世代を担う層の確保が喫緊の課題です。

⑮ 将来人口				2030年
指標名	人数(人)	構成比(%)	伸び率(%)	
将来人口総数	37,386	100.0	-5.3	
幼年人口(15歳未満)	3,729	10.0	-20.3	
生産年齢人口(15～64歳)	21,659	57.9	-4.1	
高齢人口(65歳以上)	11,998	32.1	4.9	

*伸び率は30/20年

図 4：将来人口（2030 年）



※2009年を100とした指数

図 5：民営事業所数推移

2. 民営事業所数の減少

2016 年から 2021 年にかけての民営事業所数伸び率は**-6.0%**となっており、地域経済の基盤となる事業所数が減少傾向にあります。全事業所の約 60%を従業員 1～4 人の小規模事業所が占めており、これらの事業維持や活性化が求められます。

【今後の展望】

1. 製造業における圧倒的な成長力と産業基盤の強化

製造品出荷額の伸び率（2019 年比）は 78.1%と県内 1 位を記録しており、産業用建築物の着工床面積も県内 2 位と、製造業を中心とした経済的勢いは非常に強力です。この高い生産性を背景に、さらなる企業誘致や雇用創出の可能性があります。

2. 高い住民の購買力と充実した医療資源

1 人当りの課税対象所得額は県内 7 位（1,551 千円）と高く、富裕分野の偏差値（54.1）も県内上位です。また、人口 1 千人当りの医師数は 18.0 人（偏差値 85.2）と極めて高く、健康で豊かな生活環境を維持できるポテンシャルを持っています。これらを活かした質の高い居住エリアとしての発展が期待できます。

【まとめ】

壬生町の状況を例えるなら、「強力なエンジン（製造業）と豊かな燃料（住民の富）を備えた船が、乗組員の減少（少子化）という荒波に直面している状態」と言えます。この強力な推進力を、いかにして次世代の担い手と呼び込むための壬力作りに転換できるかが、今後の航路の鍵となるでしょう。